

CO-OP REPORT

Vol. 140



コープこうべ宅配でのお届けの様子(関連記事はP4を参照)。



塩崎恭久厚生労働大臣(右)と浅田克己日本生協連会長が対談しました(関連記事はP2を参照)。

- P2 特集
塩崎恭久厚生労働大臣にお話を伺いました
- P4 生協・地域貢献レポート
誰もが支え合い安心して暮らせる地域を目指して(コープこうべ)
- P5 行政と連携した取り組み
くらしと家計の相談室を開設(生活クラブ生協・千葉)
- P6 CO・OP国際活動情報
国際協同組合同盟(ICA) トルコで総会を開催
- P7 事業種別生協のご紹介
大学生協
- P7 トピックス
ユニセフを通して子どもたちを支援
- P8 生協ミニ知識
賀川豊彦の生涯②



地域での助け合いを コーディネートする役割に期待

塩崎恭久 厚生労働大臣 **浅田克己** 日本生協連代表理事会長

全国の生協は、助け合いの組織として
地域を支える事業や活動に取り組んでいます。
行政機関や地域の様々な組織と連携し
相互扶助のセーフティーネット作りを進めています。
生協に期待される社会的役割について
塩崎恭久厚生労働大臣にお聞きしました。

地域の人を巻き込む
コーディネート力に期待

浅田会長 本日はお忙しいところ、
ありがとうございます。生協は、
購買、福祉、共済などの事業とし
もに、宅配のインフラを活用して市
区町村と「地域見守り協定」を締
結したり、子育て家庭や高齢者へ
の支援など、くらしを支える取り
組みを行っています。こうした取り
組みをどのようにご覧になっていらっ
しやいますか。

塩崎大臣 もともと生協は、消費
者の声に耳を傾け、食の安全などに
ついての発信に力を入れられていま
した。また、地域の見守りや、組
合員同士の「くらしの助け合い」とい
う形で、家事援助などの活動をさ
れているのも、よく知っています。
最近は一人暮らしの方が増え、そ
の上「限界集落」と言う言葉があり
ますが、実は市街地でも車で20〜
30分も行けば、路線バスが通らな
くなっている。70〜80代になると、
車の運転ができず、買い物に行け
なくなるので、宅配や移動販売が
食生活の頼みの綱としてくらしを支
えている。そんな地域が、どんどん
増えています。限界集落は、中山
間地域や離島以外にも、実はすで

に至るところにあり、地域のくらしを支えるきめ細かなしくみ、ネットワーク、そしてそれを支えてくれる人がいないとうまく対応できない、ということとは、だいぶ前から感じていました。生協が地域の環境の変化を感じとって、自然な形で、地域のコーディネーター役を担っていたにしているのは、大変素晴らしいんじゃないかな、と思っています。

浅田会長 地域には、お年寄りもいらっしやるし、子育て中の方もいらっしやる。そういう方たちが集まったり、知恵を分け合ったりする、そんなコーディネーターなり、しくみなりが生協でもっとできればいいな、と思っています。

塩崎大臣 自分でできる範囲のことは自分でやる、ということの基本としながらも、できなくなったら皆で助け合う、ということになるかと思っています。自助、互助、共助、公助がバランスよく機能するためにも地域の助け合いのしくみが重要だと思っています。行政だけで全部やろうと思っても無理なので、上手に公（パブリック）と私（プライベート）のパートナーシップをどう組むか、ということになります。そうした観点で、生協にも協力していただけたらいいですね。



厚生労働省・塩崎大臣

女性の力を活用して より良い地域社会の実現を

浅田会長 各地域の生協でも、行政を訪問して、行政の皆さん方から地域のニーズをお聞きしたり、生協で取り組んでいることを紹介しながら、どこかに接点がありませんか、というお話をさせていただ

いています。高齢者の一人暮らしが増えていますが、生協では、「一人暮らしになっても、ひとりぼっちにさせない」という思いを持っております。そのためには、社会とどこかでつながっていないければならぬ。生協が宅配に行く、そこで会話が生まれる、そこが社会との接点になる場合もあるので、これも

社会とつながる機会として皆さんに活用していただければ、と思っています。

塩崎大臣 最近、心配しているのは子どもの虐待です。虐待の対処件数は10万弱と言われていますが、これは対処した件数なので、実際にはもっともつと起きているのではないのでしょうか。未然に悲劇を防ぐためにも、是非、福祉の取り組みに、子どもの虐待のことも入れていただきたいと思っています。

浅田会長 最後に激励のお言葉をいただきましたと思います。

塩崎大臣 やや殺風景になりがちな時代ですから、できる限り地域の生活のニーズに根ざして、潤滑油の役割を果たしていただくとありがたいな、と思います。ドイツの保健大臣の話を聞くと、特に女性が食の安全の問題意識が高く敏感になつていて、国の政策まで動かすくらいの影響力を持つているそうです。女性のパワーをフル活用しながら、地域社会がより暮らしやすくなるように生協にも頑張ってもらえれば、と思います

浅田会長 生協は女性が力を発揮する組織ですので、これからも頑張りたいと思います。どうもありがとうございました。



日本生協連・浅田会長

誰もが支え合い 安心して暮らせる地域を目指して

事業インフラを活用した 「地域見守り活動」

全国の生協は、さまざまな事業や活動を通して、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指し



週に1回、同じ担当者が、同じ組合員に配送することで、訪問する高齢者のくらしの変化を察知。異変に気が付いた場合には、地域包括支援センターなどに通報する取り組みを実施している。

「地域見守り協定」は、担当者が配達の際、組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合、事前に取り決めた連絡先に速やかに連絡・通報を行うというもので、2015年8月現在、兵庫県と大阪府内26市6町3区と締結しています。担当者による連絡・通報の事例は、年間15〜20件に上り、

ています。コープこうべでは、「毎週同じ曜日、時間に訪問し、言葉を交わし、その人のくらしに寄り添っている担当者だからこそ、異変に気づくことができる」と考え、地域見守り活動に取り組んでいます。

高齢者を地域で支え合う 活動の実践

支援した事例を共有化する取り組みも始まっています。

また、誰もが安心して買い物ができる店舗を目指して、相手の立場に立つて接客する「ユニバーサル・サービス」に取り組んでいます。その一つが「認知症ポーター」の養成です。店舗には、多くの高齢者が買い物に来ますが、中には「購入前の商品を食べてしまう」「自宅が分からなくなってしまう」など、認知症が疑われる事例も発生しています。そこで、認知症への理解を深める確かな対応ができるよう、職員を対象とした「認知症ポーター養成講座」を開催するとともに、認知症サポーターを育てる講師「キャラバン・メイト」の育成を図っています。2015年6月現在、認知症サポーターは約5,300人となりました。コープこうべでは、店舗・宅配など現場で働く全職員の「認知



ひょうごユニバーサル社会づくり賞（企業部門・知事賞）で表彰を受けたコープこうべ職員（右）と井戸敏三兵庫県知事（左）。

症サポーター」取得を目指しています。コープこうべの高齢者を地域で支える取り組みは、2015年度「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」（企業部門・知事賞）を受賞しました。コープこうべは、引き続き、地域との連携を強め「地域で見守る」しくみづくりに取り組んでいきます。

助け合いの地域づくりを進める くらしと家計の相談室を開設



相談の様子。

で家計の状況を聞き取り、家計診断などを経た後、生活再生手段の検討や提案を行います。相談内容に応じて、公的制度や他機関の活用、相談室の貸付利用を含む家計再生につながる提案を実施していきます。貸付にあたっては事業規約に基づいて審査を行い、相談者と共に生活再生を目指して問題解決をはかる生活伴走者を付けています。

開設から11月までの8カ月間で、129件の

くらしや家計の困りごとの相談を受け付け

2015年4月、生活クラブ生協・千葉は、くらしや家計の困難を抱える人をサポートすることを目的とした「くらしと家計の相談室」を開設しました。相談室では、電話で相談の概要を受け付け、その後、面談

相談が寄せられています。相談では、「再就職が決まったが、初回給料までのつなぎ資金が必要」「非正規雇用で国民年金保険料や健康保険料、市・県民税などが天引きされず、滞納が続いたために延滞金が増算され、ますます払えなくなった」「年金の隔月給付の仕組みに慣れなくて金銭管理が難しく、急な出

費に対応できない」「住宅ローンの負担が重く、生活費をクレジットカードのリボ払いにしているのに、返済がなかなか終わらない」などの悩みが寄せられています。

相談員が寄り添いながら一緒に解決方法を考える

働きたくても働けない、など生活に困難を抱えた人たちのために生活困窮者自立支援制度が2015年4月よりスタートしました。これに基づき、生活クラブ生協・千葉は、他の3団体と連携して、千葉市から委託を

受けて家計相談支援事業や自立相談支援事業などに取り組んでいます。相談室では、経験と知識を持った相談員が、相談者に丁寧に向き合い、共に生活再生計画を作成しています。

相談者からは「一人で悩んでいたけれど、相談室で話を聞いてもらってよかった」という言葉が多数寄せられています。くらしの困りごとを気軽に相談できる場をつくることで、地域で暮らす一人ひとりが尊重され、社会の一員として役割を持ち、助け合いながら暮らせる社会の実現を目指しています。

生活クラブ生協・千葉「くらしと家計の相談室」の紹介チラシ。

- *1 生活再生を相談者とともに目指し、ともに問題解決に取り組む人のこと。弁済義務は負わない。
- *2 「応援ネットワークちば企業体」として、ワーカーズコープちば、(NPO)ユニバーサル就労ネットワークちば、(NPO)VAICコミュニティケア研究所、生活クラブ生協・千葉が応募し、受託。

国際協同組合同盟（ICA） トルコで総会を開催



ICA 総会で報告する日本生協連 新井ちとせ副会長。

議が、トルコのアンタルヤで開催されました。総会には、79カ国・1,000人以上の協同組合関係者が参加し、「2020年に向けて、あなたの協同組合はどのような姿になっていくだろうか？」をテーマに、報告や討議が行われました。分科会では「協同組合の10年に向けたブループリント」の5つのテーマ「参加」「アイデンティティ」「持続可能性」「法的枠組み」「資本」に分かれて開催されました。「協同組合の10年に向けたブループリント」は、国連が定めた2012年国際協同組合年を契機に2020年に協同組合

がありたい姿を示したものです。「参加」の分科会では、日本生協連の新井ちとせ副会長が、日本の生協が組合員の参加を通して実現している宅配・店舗・福祉などの事業や、地域見守り活動など高齢社会で取り組んでいる地域づくりの事例を報告しました。また、全体会ではICAの呼びかけに応じて日本協同組合連絡協議会（JJCC）^{※2}が制作した協同組合の意義を知らせる動画が上映されました。

今回の総会では、会長選挙が行われ、カナダの協同組合金融機関デジタルダングループのモニク・ルルー氏が選任されました。

ICAとILO 合同セミナーを開催

総会の開催に先立ち、ICAと国際労働機関（ILO）^{※3}との初めての合同セミナーが開催されました。26カ国112人が参加した合同セミナーでは、協同組合と労働組合との連携、

雇用の創出、ダイセメント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）など、労働分野に関して協同組合がどのように貢献するか、といったテーマで報告と議論が行われました。雇用創出やダイセメント・ワークに対する協同組合への期待は大きく、発展途上国での協同組合開発の支援とともに、先進国における協同組合の発展と成長を促進していくことが課題となっています。



総会レセプション。中央が新会長のモニク・ルルー氏。

2020年に向けた 協同組合の姿を討議

2015年11月11日～13日にかけて、国際協同組合同盟（ICA）^{※1}の総会および関連会

※1 ICA=International Co-operative Alliance. 1985年設立の協同組合の国際組織。94カ国287組織が加盟。本部:ブリュッセル。

※2 JJC= Japan Joint Committee of Co-operatives. ICAに加盟する日本の協同組合がつくる全国組織。

※3 ILO= International Labour Organization



大学生協

全国大学生生活協同組合連合会(全国大学生協連)には、219の大学生協が加入しており、その組合員数は約154万人(2014年9月現在)です。

全国のキャンパスで667店舗と568の食堂を運営し、事業高合計は1,860億円(13年度末)となっています。勉学・研究での必需品やキャンパスライフに不可欠な商品を提供し、近年は学生のキャリア形成支援事業の取り組みも進んでいます。食堂は、カフェテリア形式が中心で、サラダバーやバイキングでの提供も増えています。

全国大学生協共済生活協同組合連合会(大学生協共済連)が元受団体として実施している「学生総合共済」にはおよそ67万人の学生が加入しています。

NPT再検討会議に代表派遣

全国大学生協連では2015年4月24日～5月1日まで、ニューヨークで開かれたNPT再検討会議に向けて、



NPT再検討会議参加の代表団。

カンパを約287万円集めて、全国から5人の代表を派遣しました。

生協代表団や日本被団協の方々と共に活動しながら、NGO共同合同集会、国連原爆展の証言活動、ニューヨーク育英学園での被団協の方々の証言活動と一緒に参加して、折り鶴や大学生の平和メッセージを贈呈したり、ヒロシマ・ナガサキアピール集会、日本人学校や現地中学生への証言活動への参加など、被爆被害の惨禍を伝え、平和への想いを繋ぐさまざまな取り組みを行いました。

未来と向き合い平和について考える ～大学生協の戦後70年特別企画～

戦後70年にあたる2015年、大学生協連では特設ホームページを開設しました。

戦争や平和に関するさまざまなコンテンツ、

多様な階層の組合員からのブックレビュー、著名人インタビュー(元ちとせさん、おしどりマコ&ケンさん、大友啓史監督、益川敏秀先生、朝日新聞「戦後70年企画」取材クルーなど)、大学生協の多彩な平和の活動(PEACE NOW!、NPT再検討会議、会員生協の取り組み)などを通して、戦後70年を振り返り、我々が生きる“今”を見つめています。
<http://www.univcoop.or.jp/70years/about.html>



戦後70年特別企画のトップページ。

トピックス

ユニセフを通して 子どもたちを支援

生協がユニセフを支援するきっかけは、国際児童年の1979年、国際協同組合同盟が水汲みの労働に追われる発展途上国の子どもたち、「バケツ一杯の水を送ろう」というキャンペーンを始めたことでした。それを受けて、日本生協連は1984年から全国の生協に呼びかけ、発展途上国の子どもたちを支援するユニセフ活動に取り組んでいます。2010年11月からは「CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクト」を実施しています。芯なすトレットペーパー「CO・OPやわらかコアノンロール」などを1パック購入するたびに1円の募金が積み立てられる、というもので、ユニセフを通じて、アフリカのアンゴラ共和国での子どもたちの教育支援に活用されています。



CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクトによる支援校で、ユニセフの支援で研修を受けた教師による保健衛生の授業。

日本の「生協運動の父」と呼ばれる賀川豊彦は、「相互扶助による兄弟愛の精神が協同組合運動の根本理念である。貧しい者も、学生も、一般大衆も、すべて独立の誇りを持たなければならぬ。そこに真の自由が存在する」と、兄弟愛による協同組合運動を説きました。そして、1921（大正10）年に神戸購買組合・灘購買組合（現在のコープこうべ）、1926（昭和元）年に東京学生消費組合（現在の全国大学生協同組合連合



幼児に童話を話す賀川。

会）、1927（昭和元）年に江東消費組合を設立します。第二次世界大戦後は、日本協同組合同盟（後の日本生活協同組合連合会）を設立し、初代会長として全国的な協同組合の普及と指導を行いました。

賀川は、反戦平和の活動、幼児教育、文筆活動など幅広い分野の実践を行っています。これらの費用は「著述業」として得た収入でまかっています。

代表作には、自身の体験をもとに描いた小説『死線を越えて』、協同組合普及の理論を分かりやすくまとめた小説『乳と蜜の流るる郷』などがあります。『死線を越えて』がベストセラーとなった賀川は、ノーベル文学賞に2回、ノーベル平和賞に3回、候補として名前が挙げられました。日本だけではなく、世界的にも著名でその活動が認められていたことがうかがえます。

賀川は、一人ひとりの人間を大切に思う思いを失うことなく、現在につながるさまざまな組織の設立や思想の実現に向けて歩み続け、1960年（昭和35年）に72歳で世を去りました。

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）組織概要

生協（生活協同組合）は、農協や漁協などと同じ協同組合の一つです。「消費生活協同組合法（略称：生協法）」に基づいて設立され、生活の向上を目指し、さまざまな事業・活動を行っています。生協は、利用者である組合員自身が出資し、意思決定や運営に参画する組織です。

日本生協連は、生協法に基づく生協の全国連合会で、右のような事業と活動を行っています。

■主な事業と活動

1. 会員生協への商品供給などに関わる事業
 - ①コープ商品などの開発と供給
 - ②通販事業
 - ③商品事業に関わる品質管理、物流・情報システムなど事業基盤の開発や運用 など
2. 会員生協への支援の取り組み
 - ①会員生協間の連絡・調整・交流
 - ②会員生協の宅配・店舗・福祉などの事業や、環境保全・くらしの助け合いなどの組合員活動への支援
 - ③会員生協の組織運営・法令順守の支援 など
3. 生協の全国組織としての取り組み
 - ①生協の全国的な事業・活動方針策定
 - ②国内・国外の各種協同組合・諸団体・行政などとの連絡・調整
 - ③「食」「環境」「福祉」「消費者問題」など生活に関わる社会的テーマについての意見発信や取り組み など

代表理事会長 浅田 克己

会員数 330会員（2014年度末）

供給高 3,747億円（2014年度）

全国の組合員数 2,770万人（2014年度末）

会員生協の総事業高 約3.3兆円（2014年度）

[URL] <http://jccu.coop/>

創立 1951年3月20日